

2025 年 3 月 28 日
鶴見乳幼児福祉センター保育園
園長 黒田美穂子

2024 年（令和 6 年度） 鶴見乳幼児福祉センター保育園自己評価

令和 5 年度の自己評価で行っていた「連携の強化」について今年度も継続をして取り組み、クラスの保育や業務に対する意識をより共通して持てるように、各年齢クラス・給食担当・子育て支援担当など保育園園に勤務する職員が担当グループごとにそれぞれの思いを目標にあげて、令和 6 年度は取り組んでいくようにしました。

【取り組み】

『クラスでの連携（報・連・相）の強化』

各クラスの担当のグループ会議だけでなく、フリーや朝・夕の担当の職員の会議も毎月定期的に開くようにして、連携を強めていく。それぞれの気づきや疑問に思っていることを会議の場ですることにより、お互いの共通理解と意識が持てるようになる。

日々の、ミーティングで伝達していることも改めて伝えることで周知がいきなり確認しあえている。

『会議の保育についての報告の工夫』

「保育のねらい・ようす・取り組み」を報告しあうだけでなく、各クラスの保育エピソードを伝えるようにした。保育のエピソードをお互いに伝えあうことで、他の年齢のクラスの子どもたちの様子や成長がより分かり、他の職種の職や経験の浅い保育士、勤務の短い非正規職員でも子どもの姿がイメージできている。

また、子どもたちの日々の何気ない姿の報告だが、和やかな雰囲気にもなり職員間の思いをつなぐ良い機会にもなっている。

【振り返り】

クラス（各担当グループ）での連携は、令和 5 年度からの取り組みでより改善でき、しっかりとしたものになってきている。それぞれの年齢の活動は活発に行えているが異年齢の活動はまだだと感じる。コロナが流行し密を避けるためにクラス単位での活動経験が多かった若い職員もいるため、異年齢での保育の良さ、子どもの育ちへの大切さも学びつつ、次回への課題として、幼児クラス・乳児クラスの連携、横の繋がりに重点を置いて取り組みをして、子どもたちの成長を職員全体で見守り、職員同士で保育が語り合える環境や保育姿勢を作っていきたいと思います。